



「祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク」のお薦めルートを書いたマップができました。

# エコパーク体験マップ

## 祖母・傾・大崩

【豊後大野・佐伯・竹田】県と豊後大野、佐伯、竹田の3市は「祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク」のお薦めルートを記したマップを作製した。体験重視やウォーキングなどそれぞれの目的に応じて四つの県内モデルコースを設定。各市の見どころスポットなども紹介しており、「新型コロナウイルスの終息後、マップを片手にエコパークに親しんでほしい」と呼び掛ける。

縦51・5寸、横72寸のカラー。見どころや主要施設の位置が分かる11万分の1の地図を掲載している。モデルコースはいずれも「とびんやり」の2ルート

発着点が各地の道の駅。車を利用し、日帰りもしくは1泊2日を想定している。ファミリー向けは「体験」



ユネスコエコパークのお薦めルートや見どころが載ったマップを手にする豊後大野市商工観光課の新宮圭太主任、豊後大野市役所

## 県と3市 目的別に4コース紹介

を紹介。体験は宇目エコパークセンターや藤河内溪谷、うめの里陶芸工房（以上、佐伯市）などを巡る。ひんやりは原尻の滝、豊後大野市）、穴森神社（竹田市）などを経由する涼を求める人向けの内容だ。

「人と自然との共生探訪コース」は田形分水（竹田市）や俵業の郷伝承体験館（豊後大野市）などを訪ね、地域の歴史、文化を学べる。神原登山口（竹田市）と健男社（豊後大野市）で散策を楽しむ「ちよつと歩くアクティブコース」もある。

5千部作製。事業費は約75万円。県が2分の1、残りを3市が負担した。各市役所や道の駅などで配布している。

豊後大野市のスポット選定などに携わった市商工観光課の新宮圭太主任は「比較的走行しやすいルートばかり。各地を巡り、豊かな自然を感じ取ってほしい」と話した。

（山田志朗）

エコパークは自然と人の共生を図る取り組みで、国連教育科学文化機関（ユネスコ）が1976年に始めた。大分、宮崎両県の6市町にまたがる「祖母・傾・大崩」は2017年6月に登録された。国内登録地は現在10カ所。

2020年4月20日付大分合同新聞10面

① エコパークとはどんな取り組み？

② 「祖母・傾・大崩おおおくえユネスコエコパーク」が登録されたのはいつでしょう？

③ 体験マップではいくつのモデルコースが設定されていますか？

④ モデルコースの中であなたがしたいコースはどれですか？